

森林やまがた

No.66

2002 9月



目次

『水源の森探検隊』森へ出発!.....	2
『森がはぐくむ環境教育』.....	3
緑の少年団活動報告 自然を通じて.....	4
最止型利用間伐で効果的な 間伐事業を進めています.....	5
山形の本で家をつくる.....	6
現地ルポ 村山市ふるさと教育の森.....	7
普及情報 森林・林業教育の推進.....	8
森林づくり実践隊活動.....	9
山形の古木・名木.....	10
公共木造施設.....	10
お知らせ 第12回山形県林業まつり.....	11
森づくり実践隊参加者募集.....	11
林道マラソンin県民の森2002.....	12

(表紙写真は夏休み子どもサイエンス・スクール)



土壌断面から採取した土を詳しく観察する

七月二十四日、小学二年生から六年生までの十人からなる「水源の森探検隊」が結成され、森と水の関係を探るための探検に出発しました。

この事業は、子どもたちの科学する心を養うため、毎年、夏休みに合わせて、県の各公設試験研究機関がそれぞれのテーマに基づき、実験や教室を開催するものです。森林研究研修センターの今年のテーマは「森と水」。総合的な学習の時間が導入され、学校では川や水道など水に関する

テーマが取り上げられていますが、その源流にある森が、水をどのように育んでいるのか、また、わたしたちの家庭にどのように供給される

『水源の森探検隊』森へ出発！

—夏休み子どもサイエンス・スクール—

県森林研究研修センター

るのかを探るのがこの探検隊の目的です。

探検隊はまず、西川町志津にある県立自然博物館の広葉樹の森を歩き、森はさまざまな種類と高さの木で構成されていることを認識するとともに、堆積した落葉を観察しました。そして、いよいよ、湧き水のある場所に到着です。ここは、冬の積雪が

四メートルを越える県内でも有数の豪雪地帯です。冷たい水の感触を確かめたあと、雨も降っていないのにこの水がいつたいてどこからくるのか、溶けた雪はどこにいったのか、疑問が子どもたちを取り巻きます。そのヒントが森にあることに気づいた探検隊は、次の目的地である当センター試験実習林で、実際に広葉樹の森の土を掘り、その構造を観察しました。落葉が分解されていく過程とその下にある土、そこで活躍する生き物について学習した探検隊は、森の土の構造が水を蓄える働きと大いに関係があることに気づきました。

最後に、西川町にある村山地区水道事務所をたずね、自分たちの家に供給されるまでの水の旅を学習し、今回の探検隊の目的を達成したのです。

森林を活用した環境学習では、できるだけ身近なものに関連させることが大切です。今回は、毎日の生活に欠かせない水を取り上げたこともあって、子どもたちの真剣なまなざしが印象的でした。

来年もまた、楽しいテーマで、子どもたちと一緒に森について考えてみたいと思います。



湧き水に到達した探検隊

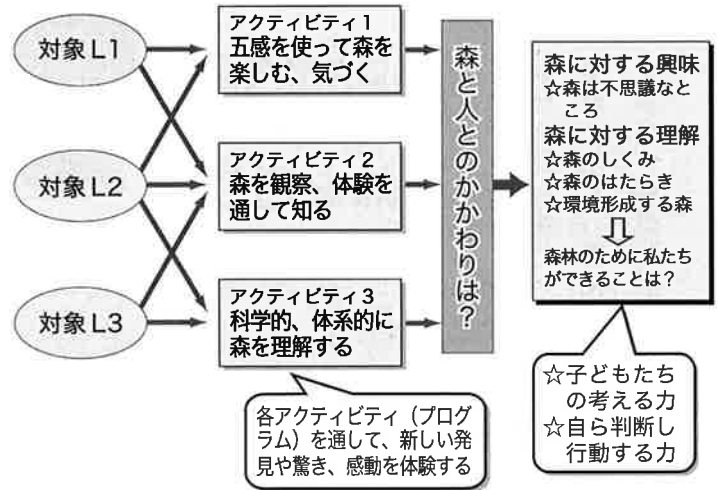


土の中の生き物をさがす



手作りの直径巻尺で森を調べる

【森林環境教育プログラムの展開、発展フロー】



八月一日から二日にかけて、西川町の当センター試験実習林を会場に、県内小中学校の教職員を対象に、森林環境教育指導者研修会を開催しました。

総合的な学習の時間が導入され、学校ではさまざまな題材を取り上げ、環境教育を進めていきます。環境教育の題材の中でも、特に森林は、その多様性や総合性、人のかかわりなどから、効果的なテーマであるといえます。しかし、学校の近くに森林が少ないことや森林に対する認識の違いから、森林が環境教育の題材として積極的に活用されていないのが現状です。

当センターでは、森林環境教育

平成十四年度森林環境教育指導者研修会 「森林がはぐくむ環境教育」

県森林研究研修センター

育の普及をめざして、平成二十年度から、教職員を対象に森林環境教育に関する指導者研修を開催してきましたが、今年度から、長期的な展望に基づく研修の開催をめざして、環境教育実践研究センター（宮城教育大学助教授）の平吹喜彦氏をアドバイザーに、より実践的な内容で実施していくことになりました。森林環境教育のプログラムは、対象レベル、すなわち、学年や地域環境の違いによる理解度を考慮し展開する必要があります。そこで、今回の研修は、対象に応じた森林環境プログラムの展開を主な課題とし、図に示す展開フローに基づき、今回設定した研修を行いました。

かつてのように、子どもたちが森で遊び、学び、感動する。森林がはぐくむ環境教育の原点はまさしくここにあるのではないのでしょうか。

山形の森林環境に適した環境教育の普及をめざして、これからも効果的な研修を開催する計画です。

活動報告

緑の少年団



寒河江市西根小学校
緑の少年団

指導・寒河江市社会教育課 鈴木輝彦

さくらんぼの里、寒河江市。その東に西根小学校は位置しています。

自然を通じて

本少年団の夏の事業として、キャンプがあります。今年度のキャンプは去る七月二十七、二十八日に西川町弓張平オートキャンプ場にて行われました。弓張平は月山、湯殿山、姥ヶ岳を望める大自然に抱かれた素晴らしい場所でした。そこで体験学習の一つとして

炭焼き体験を行いました。炭を窯から出し、燃えている炭に灰をかけ、酸素に触れない状態に

し、火を消すといった工程で炭は作られます。窯を初めて見た団員は驚いているように見え、窯から炭が姿を現すと興奮した様子で炭に灰をかけていました。できたての炭はとても熱く、団員の顔や腕からは汗が玉のように吹き出ていました。



炭焼き体験

キャンプといえば、もちろん野外炊飯です。メニューはバーベキューです。団員たちは慣れ

ない手つきで肉を切り、野菜の皮をむき、和気あいあいと料理し、本当に楽しそうにみんなで食事をしました。



みんなでポーズ

日が山の陰に落ちてからは、真夏といえども、気温はぐんぐん下がり、十時を過ぎるころには長袖、長ズボンでも寒さを感じました。

就寝時間を過ぎてても、団員たちの楽しそうな話し声は続きました。やはり、興奮して眠れな

いんでしよう。

翌日は起きてすぐに、一時間程度の自然散策に出かけました。キャンプ場周辺はブナが群生しており、静かなブナの森の深緑は朝日を浴びて、朝露は輝いていました。自然豊かな森の中には見たことがないような動植物があるのに気が付きました。

この景色を見て、団員たちはどう感じているのかなと思いましたが、

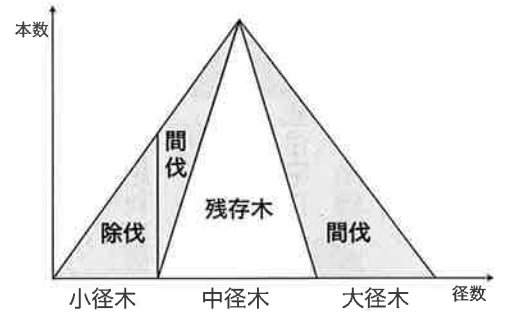
また、私は大自然の優しさ、厳しさの中で人間がいかに小さい存在かを感じ、自然の偉大さ、大切さをこのキャンプから学びました。

団員たちには、自然の美しさを通じて、またキャンプ生活の不便さを通じて物のありがたみ、命の大切さ、また他の何かを感じとって、これらに生かしてもらいたいです。



当組合では、管内の森林資源が充実している利点を生かし、効果的な利用間伐を実施するため、小規模で分散的な森林所有者の合意を図りながら団地化を進めています。

最上町は、小規模ながら山づくりへの関心が高い土地柄で、森林はかなり団地化されています。植栽本数も三千五百〜四千人と多く、最上型間伐による強度の収益間伐が有効と考えられ、



最近では良い結果が出始めています。

平成十年度から、県単間伐推進事業などを活用した十齢級（五十年）までを対象とする利用間伐への取り組みを開始しました。優良木と劣勢木を対象に伐採率が三十%以上と強度の間伐をしながら、平均直径級の木を多く残す収益性の高い間伐手法を採用。とくに森林所有者には収益間伐のPRを行い、職員や労務班の選木、造材技術の向上を図りながら、所有者の所得確保に努めています。

平成十三年度からは、県単新

最上型間伐で 効果的な間伐事業を 進めています

最上広域森林組合

規事業の資源循環型森林施業団地化モデル事業を組み合わせ、モデル団地区域を設定しました。町との緊密な連携のもとに、五年で百二十七畝の利用間伐で一萬㎡、簡易作業路も一萬六千五百畝の新設等を計画。十三年度は、二十五畝の利用間伐と千四百二十五畝の基幹作業路を開

設。間伐材等も材価が低迷している状況で不安もあるが、複数の補助制度に当組合の安定している林産事業を組み合わせて、山林所有者の中間収入の確保に努めているところです。利用間伐で搬出された丸太等は地元の

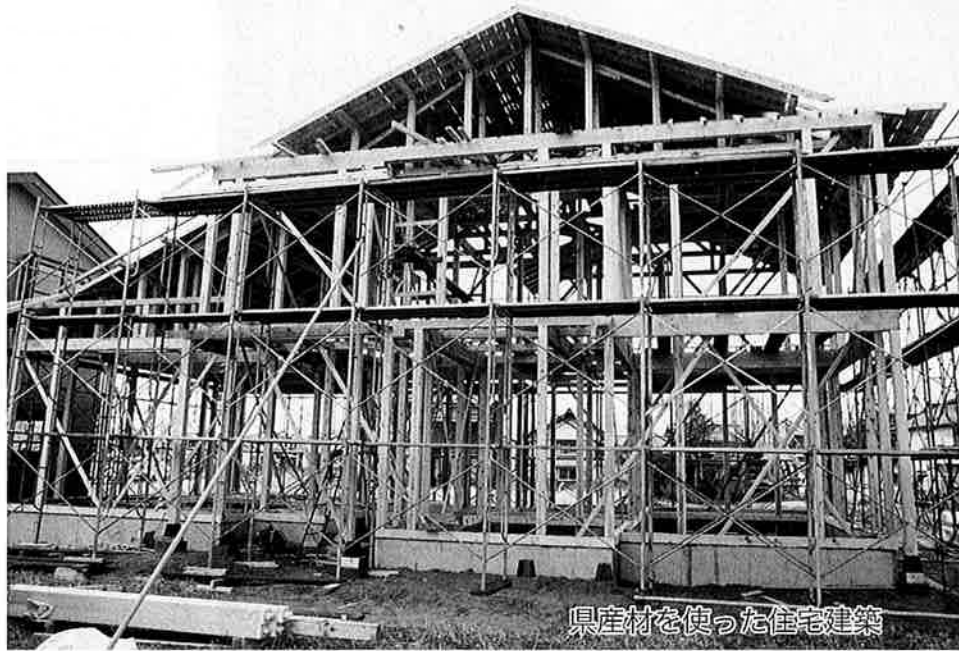
製材所で建築材として加工、他に県森連を通じ、小径木を利用した土木用資材にも利用しています。

今後も、利用間伐で得られた収益を未利用林分の整備に！のPRに努め、山で得られた収益で循環させる考えです。最上町から取り組み、最上地域に最上型間伐への関心を高め、推進拡大していこうと役員一同頑張っています。

資源循環型森林施業団地化モデル事業の実施状況

地区名	間伐面積 (ha)	間伐材生産量 (m³)	うち小径木生産量 (m³)	間伐材販売価格 (千円)	搬出率 (%)	簡易作業路延長 (m)	山土場設置 (㎡)
志茂A	1.9	187	62	2,256	70	485	200
志茂B	0.8	52	18	593	90	170	200
富沢	9.7	483	169	5,640	83	3,680	300
堺田A	3.9	376	137	4,333	87	665	300
堺田B	2.2	219	83	2,534	89	545	100
向町A	1.2	118	19	1,448	84	275	100
向町B	1.9	183	31	2,249	78	415	100
東法田A	2.9	290	84	3,447	93	585	100
東法田B	0.4	21	8	243	84	70	100
合計	25.0	1,930	611	22,743		6,890	1,500

(注) 小径木は4mの径6cmから11cm、搬出率は材積（素材搬出）



県産材を使った住宅建築

住宅の建築を促進するため、次のような施策を展開中です。

山形の家づくり利子補給制度

この制度は、耐久性の高い住宅と県産材の利用促進のため、住宅を建築するときの住宅ローンに利子補給するものです。主な内容は次のとおりです。

ア、利子補給率

- ・五% (耐久性の高い住宅)
- 一・〇% (耐久性が高く県産材を使用した住宅)

※耐久性基準 (住宅金融公庫の耐久基準を準用)

※県産材の使用 (構造材のうち、県産材を六〇%以上使用する住宅)

イ、利子補給対象限度額

- 一、五〇〇万円以内

ウ、利子補給期間

- エ、対象住宅ローン

民間金融機関の住宅ローン

オ、募集期間

平成十四年十二月二十七日

(金) まで

で、融資期間が三五年以内の五年間固定金利ローン

詳細は、

山形県土木部建築住宅課

☎〇二三一六三〇一二六四〇

にお問い合わせください。

家づくりネットワーク

地域の気候や文化に合った住宅の建築を促進するため、建築士、工務店、製材業者、素材生産者等が協力し合って地域の家づくりを進めるネットワークが各地域に設立されています。

現在、県内に設立されている家づくりネットワークは、五団体あり、各市町村の木造住宅推進、林業振興施策と一体となって活動しているネットワークもあります。(表)

今後、このような家づくりネットワークが各地域で組織され、県産材を使用した住宅が、数多く建築されることを期待しています。

〔県森林課〕

山形の木で家をつくらう

— 県産材を使った家づくりの推進 —

名 称	設立年月日	活動範囲	会員数	連絡先
木づくりの家やまがたネットワーク	平成12年1月	県内	43	023-688-2200
庄内木材加工協同組合	平成9年2月	庄内	4	0234-64-4808
木の家づくりネットワーク	平成3年7月	金山町・関東	64	0233-52-3840
白い森住宅工房	平成13年12月	小国町	8	0238-62-2332
森林と匠の家づくりネットワーク	平成14年8月	温海町	17	0235-43-4616 (内線446)

—村山市ふるさと教育の森—

森林体験がはぐくむ心

伐倒実演もあり、スギの木が倒れると、生徒からはその迫力に大きな歓声が上がりました。

最後に全員で一帯を散策し、山野草を調べたり、山菜とりをしながら郷土の自然を自分で確かめて森林体験を終えました。

このように、二十一年間続いている森林体験はいま注目されている環境教育の先駆的役割を担って



「森林の大切さを学び、郷土を愛する心を育てよう」を目的に村山市内六つの中学校、約千名の生徒が市教育委員会の主催で、六月十九日、二十日、二十四日の三日間、葉山山麓で植林などの森林体験をしました。

この催しは今年で二十一年目をむかえます。これまででは、植林や下刈り、施肥など、おもに山での作業が中心でしたが、平成十三年、二十周年を契機に、森林教室やふれあい森林ゲームを取り入れ「自然に親しみ、自然に遊び、そして学ぶ」実体験

プログラムに、と内容を充実させています。

当日のようを紹介しますと、生徒たちは大型バスに分乗し、葉山山麓の集落、山の内地区から三キロメートルほど入った場所に集合します。鳥のさえずり、風の音だけが聞こえるなか、森林体験が始まります。

全員を対象とした樹木医による森林教室では、五感を使って自然を感じる方法や、地域の特徴的植物について実物を使って分かりやすい説明があり、生徒たちは目を輝かせて聞き入っていました。

そして昼食は、爽やかな風のなか、みんなで輪になって楽しく食べました。特に自然の山中での食事はなによりのご馳走だったようです。

その後、一、二年生は植樹作業です。地元の林業士や、森林管理署職員から作業手順をおそわり、三日間で〇・八ヘクタール、二千本のスギ苗木を植栽しました。

三年生は林業改良指導員といっしょに、ふれあい森林ゲームに挑みます。体や木の枝を使い、木の高さや材積、距離や面積を推測し、その精度を競いました。

また、ゲームに使ったスギの



伐採された木の感触に興味津々

おり、今後も村山市では自然を大切にし、ふるさとへの愛着心をもち、積極的に事業を展開する予定です。

「村山総合支庁北村山森林整備課」

◆はじめに

生態系は多様な生物が息するほど健全で安定していると言われています。地球サミットから十年目の今年、政府は「新・生物多様性国家戦略」を策定しました。

◆新・生物多様性国家戦略

平成四年の「生物の多様性に関する条約」、平成七年の「生物多様性国家戦略」、昨年の小泉首相就任所信表明における「自然と共生する社会の実現」などを踏まえ、三月に閣議決定されました。

「戦略」は人間生存の基盤であり、豊かな生活・文化・精神の基礎である生物多様性の保全とその持続的な利用を目的としています。

生物多様性の危機の現状などを踏まえ、示している大きな柱は、①種の絶滅、湿地の減少、移入種問題などへの対応としての「保全の強化」、②保全に加えて失われた自然をより積極的に再生、修復していく「自然再生」の提案、③里地里山など多義的な空間における「持続可能な利用」、すなわち地域の生物多様性保全を進めるために、生活・生産上の必要性等と調和する社会的な仕組みや手法についてのアプローチをより積極的に進めることの三つです。

この「戦略」について、林業白書の中では、身近な自然の保全、混交林化を図るなど複層状態の森林への誘導、間伐等の適切な森林整備の推進が、森林の生物多様性の保全等を進める上で重要であると明確化されたとしています。



森林・林業教育の推進

～「新・生物多様性国家戦略」での位置付け～

また、環境白書では、トータルプランに止まらず、五年の実践的な行動計画としての性格をあわせ持つとし、今後様々な施策を進めていくとしています。

◆森林・林業教育

「新・生物多様性国家戦略」の着実な実施を進めるため、農林水産省と環境省は「地球環境保全のための森林保全整備に関する協議会」を設置し、この中の「懇談会」から先頃中間とりまとめ案が出されました。この案では「多様な主体の参加による森林づくりの推進」として、学校教育において総合学習の時間等を利用して、森林の役割や森林整備の大切さを学習する機会を積極的に設けることや学校林等を活用した体験学習を推進するとともに、都市部に森林体験等が可能な博物館を整備するなど幅広い国民を対象とした体験活動が重要と提案されています。また、協議会では同時に四二道府県知事が組織する森林県連合との意見交換を行い、平成十五年度予算に関する緊急政策提案もなされ、その中では森林や野生生物を観察・学習する「自然環境保護区」や体験を通じた森林教育の場「自然共生特区」の設置、また森林情報に詳しい関係者を組織する「森林ナビゲーター」の設置などが提案されました。

◆おわりに

生物の多様性が保全されるよう、森林・林業教育の充実に向け、多くの方々と連携しながら推進していきたいと考えています。

〔県森林課 林業専門技術員〕

森林整備の担い手や リーダーを養成

もり 「森林づくり実践活動隊」

林業公社では、森林に対する理解を深めてもらう普及啓発活動の一環として、平成九年度から「森林づくり体験活動」を行ってきました。

本年は、森林での作業を安全に行うための基礎的な知識や林業機械を用いた実践的な作業技術の習得を目的として、公社造林地をフィールドに「森林づくり実践隊活動」を行うことになりました。

第一回の開催は、六月二十二日（土）に尾花沢市の鶴子公社造林地内の「鶴子ふれあいの森」で、一般公募や森林オーナーなどから参加を募って行いました。林災防の恩田林業技能師範から、刈払機の使い方と山林での基本的な安全講習の指導、林業機械販売店と林業士の方から、刈払機の操作方法と器具の手入れについて指導を受け、参加者

全員で下刈作業を体験。当日は、小雨と強風の中、真剣な表情で足場に注意しながら指導を受けていました。

午後からは、林業士の加藤周一さんから「林業士として生きる」と題して、これまでの体験談を話して頂きました。

参加した森林オーナーの方からは、「今回のような刈払機を使った作業技術の基本から応用までの指導を受けたのは初めてで、大変勉強になった。今後、自分の山でも今日教わったことを試してみたい。」との感想が寄せられました。こうした活動が、森林整備の担い手やボランティアのリーダー等の養成、森林オーナーの方々の森林の活用法の一助になればと考えています。これからは、間伐や枝打ちそして広葉樹の手入れなどについての活動を四回予定しています。



（九月～十一月の土曜日）詳しい日程は、森林やまがた八・九月号をご覧ください。たぐか、林業公社（〇二二一六二二一三五〇五）にお問い合わせ下さい。また、親子での楽しい森林体験も併せて企画しておりますので、多数の参加をお待ちしております。

〔山形県林業公社〕



(案内略図)



白山神社の御神木として拝殿の前に立つ。樹齢は七百年とも言われるが、樹勢の盛んなこと、姿が整っていることなど、その堂々とした様子は、市内の名木として代表的なひとつ。大木巨木になると、幹が空洞になりやすいが、このケヤキは全くその心配がない。樹高約二十メートル、根回りは約十メートル。取材の日は、巨大な蟬の

声の塊であった。
昭和四十八年五月十二日、長井市指定天然記念物に指定されている。
〔県みどり推進機構〕

公共木造施設⑥

金山町立 明安小学校

金山町大字下野明



完成年度 平成13年度
延床面積 校舎 2195.17㎡
構造 木造+鉄筋コンクリート
特徴 屋根の架構は、金山杉を加工した大断面集成材でアーチを形成。児童が日常触る部分の建具、家具、壁は木材を使用し、回廊、中庭の床は地場産の栗のウッドロックを使用。

問い合わせ先 金山町教育委員会学事課



お知らせ

第十二回山形県林業まつり

『もりまち 森林と都市 豊かに結ぶ 木の恵み』

今年でいよいよ十二回目を迎える『山形県林業まつり』が左記のとおり開催されます。

一日時

平成十四年十月五日(土)

正午～午後四時

平成十四年十月

六日(日)

午前九時～

午後三時

二会場

山形国際交流プラザ

(ビッグウイング)

三 主な催し内容

○森林の働き、林業の役割、木材の良さ等をわかりやすく紹介するパネル展示等
○第五十三回全国植樹祭を振り返って写真等の展示



第11回山形県林業まつりから

○間伐材製品の展示・販売
○県産きのこを思いっきり味わえる『きのこ村』
○親子で楽しく木工工作できる『青空親子木工教室』

『青空親子木工教室』

○各地域の特産品

(木工品、山菜

きのこのほか)の

展示販売

○竹馬、けん玉な

ど昔の遊び体験

○子供たちと一緒に

にネイチャーゲ

ーム

○緑化樹のプレゼント

その他、楽しい企画がいっぱい。皆様のご来場をお待ちしております。

い。皆様のご来場をお待ちしております。

おります。

〔県 森林課〕

平成14年度

お知らせ

もり 林業公社「森林づくり実践隊」のご案内

豊かな地球を守るため活力ある森林を造ります。
林業公社の「森林づくり実践隊」に参加しませんか。誰でも参加できます。
森林の手入れや安全な作業の仕方などを習得することが出来ます。
親子での楽しい森林学習もあります。

開催日	場 所	森 林 づ くり 活 動 内 容
9月14日 (土)	大蔵村清水 桜峠山公社林地	1 立派な林の造り方 ・間伐材の選び方 2 特別企画 ・チェーンソーの使い方と安全講習会 ・体験談「百樹の森を育てる」
9月28日 (土)	飯豊町中 蔵王公社林地	1 豊かな水源の森づくり ・良質材をつくる枝打ちの仕方 2 親子体験塾 ・枝打ち作業体験 ・「森林学習会」・炭を使っの飾り物作り
10月26日 (土)	尾花沢市鶴子 鶴子公社林地	1 広葉樹の利用について ・広葉樹の手入れと活用 2 きのこのホダ木作りと植菌 ・林業機械の点検整備
11月9日 (土)	羽黒町手向 県林木育種場	1 雪に強い木を育てる技術 ・杉の品種の特徴 2 親子体験塾 ・除伐と枝打ち作業体験 ・「森林学習会」・クリスマスドアベル作り

申し込み・問い合わせ先
財団法人 山形県林業公社

TEL 023-623-3505
FAX 023-623-3530
URL <http://www.mmy.ne.jp/y-ringyou/>
E-mail : y-ringyou@mmy.ne.jp

お知らせ

「林道マラソン」に県民の森 2002
開催のご案内

今年六月二日金山町「遊学の森」で行われた第五十三回全国植樹祭を記念して、林道マラソン大会が「県民の森」周辺林道を使用して開催されます。

ゲストランナーに、シドニーオリンピックで活躍した市橋有里選手、そして県内からはモンテディオ山形及び山形陸上女子駅伝チームの参加も決定しております。紅葉の県民の森をゲストランナーと一緒にかけぬけてみてはいかがでしょうか。

また、当日はキノコ大鍋の振る舞いや地元農家による秋の味覚販売、豪華景品が当たる人気の森林×クイズなど楽しいイベントも多数計画しております。ふるってご参加ください。

□期日
平成十四年十月二十日(日)
受付 午前八時四十五分～
開会式 午前九時三十分～
スタート 午前十時～

□会場

県民の森はんのき広場

□コース及び区分

10km/高校生以上
5km/中学生以上
2km/小学生以上

□特典

参加賞(全員)のほかとび賞など多数の賞品を準備してあります。

□参加費

一般 一、五〇〇円
中学生 一、〇〇〇円
小学生以下 五〇〇円

□申し込み方法

県・市町村等に備え付けの申し込み用紙(郵便振り込み用紙)で申込みください。

□申込期限 十月十日(木)

□問い合わせ先

「林道マラソンエントリー事務局」
TEL〇二三一六四一一二一九〇
「林道マラソン事務局」
TEL〇二三一六二九一七七三三

——全国食用きのこ種菌協会会員——

〒999-7757

山形県東田川郡余目町払田字村東17-2



株式会社
河村式種菌研究所

きのこ作りなら。

◎形質を誇る!

○しいたけ・なめこ

お問い合わせは：電 話 0234(42)1122(代)
F A X 0234(42)1124

青森県営業所：青森県三戸町同心町 電話 0179(23)3582

ひらたけ・まいたけ・ぶなはりたけ
くりたけ・たもぎたけ・むきたけ
その他きのこ種菌

印刷所 渡辺活版所 定価 一部二一〇円

森林やまがた9月号 平成14年9月1日発行 通巻第66号

監 修 山 形 県
編集・発行 山形県森林協会
〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内
TEL 023-631-6566 023-622-8823
FAX 023-631-6573

「ゆとり都」森林課ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/ns/shinrin/index.html>
第53回全国植樹祭ホームページ <http://www.shokujusai-yamagata.jp>

古紙配合率100%再生紙を使用しています